

第 57 回 ITER 機構職員募集説明会での Q&A

1. 日時・場所

平成 24 年 9 月 29 日(土)

那珂核融合研究所 ITER 棟玄関ロビー会場(核融合施設見学会会場にて)

2. 来訪者:5名

3. 説明概要:

H24 年度的那珂施設公開にあわせて、来訪者に資料を配布し、核融合や ITER について説明するとともに、ITER 機構職員募集及び登録の案内を行った。

(ITER 計画管理グループ杉本 GL, ITER 統合支援グループ 上野、森山)

4. 主な Q&A

Q:ITER 計画とは何ですか？

A:ITER 計画は平和目的の核融合エネルギーが科学技術的に成立することを実証するため、人類初の核融合実験炉を実現しようとする超大型国際プロジェクトです。ラテン語の道や旅という意味も兼ねる「ITER」には、核融合実用化への道・地球のための国際協力への道という願いが込められています。ITER 計画は 2020 年の運転開始(ファーストプラズマ)を目指し、日本・欧州連合(EU)・ロシア・米国・韓国・中国・インドの 7 極により進められています。

Q:現在カダラッシュサイトで ITER 機構に従事している人数と日本人の数はどうなっていますか？

A:ITER 機構の職員総数は現在 474 人です。専門職員が 308 名、支援職員が 166 です。日本からは 28 名の研究者・技術者が専門職員として ITER の建設活動に従事しています。支援職員は 7 名です。日本国籍の方の割合は、専門職員が 9.3%程度となっています。この倍の日本人が ITER 機構で働けるよう支援を行っております。

Q:ITER 建設地の状況を教えてください。

A: 2010 年 8 月に建屋の基礎工事が本格的に開始されて以来、ITER 建設工事は順調に進展しています。2011 年 12 月には、直径 5m から 24m のポロイダル磁場コイル(ニオブチタン製)を製作する巻き線建屋(幅 49m、長さ 257m、高さ 18m)が完成しました。2011 年 5 月には、ITER の装置本体が設置されるトカマク複合建屋のピットでは掘削作業が完了し、2012 年 4 月にピットの内壁整備と免振動用ベースマットの設置作業が完了しました。この工事には、コンクリート 100,000 m³、鉄筋 3,400 トンが使用されました。ITER 機構本部ビル(地上 5 階、地下 1 階高さ 20m、長さ 180m)がいよいよ完成し、引越しが間もなく開始される予定です。

Q:日本が分担している機器があれば教えてください。

A: 日本が分担している調達機器は多岐にわたります。パンフレットにも紹介されている通り、中心ソレノイド、トロイダル磁場コイル、トリチウムプラント設備、ブランケット遠隔保守機器、ダイバータ、高周波加熱装置、中性粒子加熱装置、計測装置などになります。

パンフレットは、<http://naka-www.jaea.go.jp/kankoubutu/PDF/iter.pdf> をご参照下さい。



H24 年度那珂研究施設公開における ITER 機構職員募集説明会の様子